

湯西川温泉地区

◆目標とする街並み

平家の郷の歴史が感じられる湯の郷の街並み

◆まちづくりの心得

- 心得1 湯西川の歴史と自然を尊重しましょう
- 心得2 落ち着きある、くつろぎの沿道空間を演出しましょう
- 心得3 「和」の街並みと調和した美しい夜景を演出しましょう

◆まちづくりの作法

- 作法1 建物等には、日本家屋らしいデザインを積極的に活用しましょう
- 作法2 光沢感やつやのある素材は避け、
自然素材を積極的に活用しましょう
- 作法3 平家の歴史にちなんだまちの
イメージカラーやシンボルマークをつくりましょう
- 作法4 奥ゆかしいエントランス空間を演出しましょう
- 作法5 まち行く人をもてなす交流・憩いのスペースをつくりましょう
- 作法6 提灯や行灯、番傘などを活用した照明で演出しましょう
- 作法7 街並みの中の木々や草花を、光とともに魅せましょう

※全地区共通のガイドラインと併せてご活用下さい。

平家の郷の歴史が感じられる 湯の郷の街並み

湯西川温泉地区は、秘境ともいえる山あいの郷であり、平家にまつわる伝説が残る温泉街です。都市部を離れ、独特の時間を経て醸成された落ち着きある雰囲気は、人を魅了し、癒します。この魅力を高めるため、地域の特徴である豊かな自然に包まれた環境と平家のイメージを活かし、平家の郷の歴史が感じられる湯の郷の街並みを目指しましょう。

◆湯西川温泉地区の景観資源 ～湯西川温泉地区で大切にしていきたいもの～



心得 1

湯西川の歴史と自然を尊重しましょう

湯西川温泉地区は、「平家の隠れ郷」「湯治場」としての長い歴史があります。その歴史が感じられるような風情ある温泉街を目指しましょう。

また、秘境ともいえる山あいの郷の雰囲気尊重し、豊かな自然の中に佇む落ち着きのある街並みの形成に努めましょう。

心得 2

落ち着きある、くつろぎの沿道空間を演出しましょう

自然豊かな湯治場として、歩くほどに癒されるような落ち着きあるくつろぎの歩行空間をつくり、来訪者の回遊性を高めましょう。

そのため、街並みがみどりの中に見え隠れするような演出で、みどりあふれる公園の中にあるような、自然豊かな山あいの郷、平家の隠れ郷らしい雰囲気づくりに努めましょう。

心得 3

「和」の街並みと調和した美しい夜景を演出しましょう

湯西川温泉地区では、「竹の宵まつり」や「かまくらまつり」などで光を用いた美しい演出を行っており、光をまとった街並みの魅力が感じられます。この魅力をイベント時だけでなく、日常的に堪能できるよう、美しい夜景づくりに努めましょう。

また、地区外から帰ってくる人々が、自宅に、故郷に温かく迎えられる安心感を感じるような夜の街並みを目指しましょう。

◆まちづくりの作法 ～「目標とする街並み」を実現するための具体的な方法～

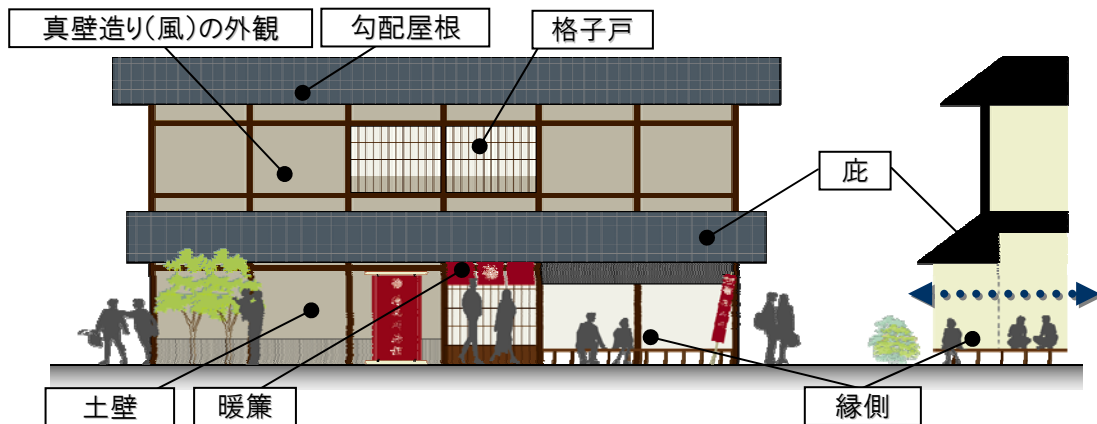


作法 1

建物等には、日本家屋らしいデザインを積極的に活用しましょう

■日本家屋らしいデザイン

湯西川温泉地区には、落ち着きと趣を感じさせる日本家屋がよく似合います。日本家屋らしいデザインを少しずつ取り入れていきましょう。



■地区内における「和」のデザイン



作法 2

光沢感やつやのある素材は避け、自然素材を積極的に活用しましょう

■自然素材の効果

自然素材は時間が経てば経つほど、その風合いや味わいが増し、色や質感が風景に、人に馴染んでいきます。特に、人が触れる部分(柱や手すり、扉・戸、ベンチなど)は、自然素材を使うことで時間の経過を肌で感じる事ができ、ものに対する愛着を深めるにつながります。

■自然素材と光

光沢感やつやのある素材は、光を受けてそのまま反射させるため、まぶしさを感じさせたり、局所的な明るさを与えますが、自然素材の多くは光を受け止めるため、より素材そのものの色合いや質感が感じられ、柔らかな明るさをもたらします。

■活用上の工夫

自然素材の活用が難しい場合は、色合いや材質などが自然素材に近い建材を用いる、表面の仕上げに趣向を凝らす、自然素材とうまく組み合わせる等の工夫をしましょう。



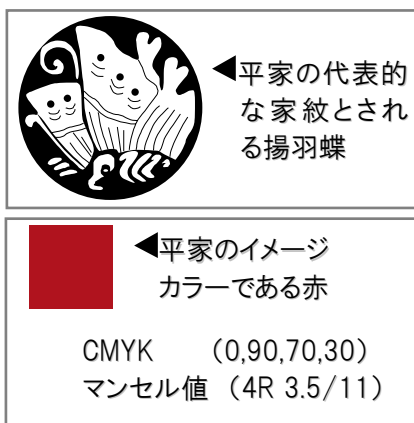
作法3

平家の歴史にちなんだ

まちのイメージカラーやシンボルマークをつくりましょう

■平家の「赤」と「紋」の活用

まちのイメージカラー、シンボルマークとして、平家の歴史にちなんだ色彩や紋を積極的に活用することで、湯西川温泉地区の個性を表現するとともに、まち全体の統一感、一体感を創出しましょう。



【注意点】上記で示している色を実際に太鼓幕等に活用する際、素材や染め方によって違いが出るため、上記に示した色と異なる場合があります。

■地区内における平家の「紋」の活用例



▲暖簾



▲暖簾



▲流れ旗



▲のぼり旗



▲看板



▲看板



▲玄関の軒下



▲照明



▲提灯



作法 4 奥ゆかしいエントランス空間を演出しましょう



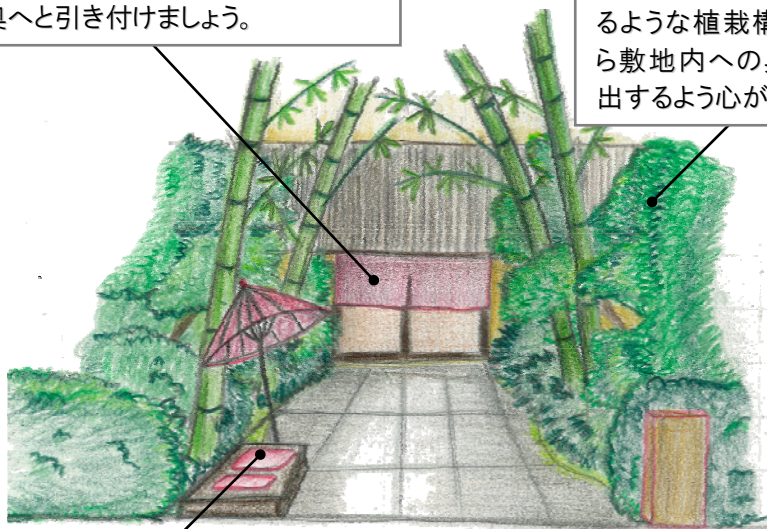
作法 5 まち行く人をもてなす交流・憩いのスペースをつくりましょう

■エントランス空間のイメージ

道・敷地・建物の奥への期待感を持たせるよう、見えそうで見えない、隠れているのに気配や雰囲気は感じられる、そういった雰囲気づくりを心がけましょう。

イメージカラーである平家の赤を用いた暖簾やのぼり旗等をアクセントになるよう設置して、視線を奥へと引き付けましょう。

建物の輪郭が隠れて全体が見えず、隙間から垣間見えるような植栽構成とし、道から敷地内への奥行き感を創出するよう心がけましょう。



まち行く人を引き付ける看板や休憩スペースを設けるなど、分かりやすい、入りやすい入口空間の演出を心がけましょう。



▲魅力的なエントランス空間の例

■沿道空間の平面構成のイメージ

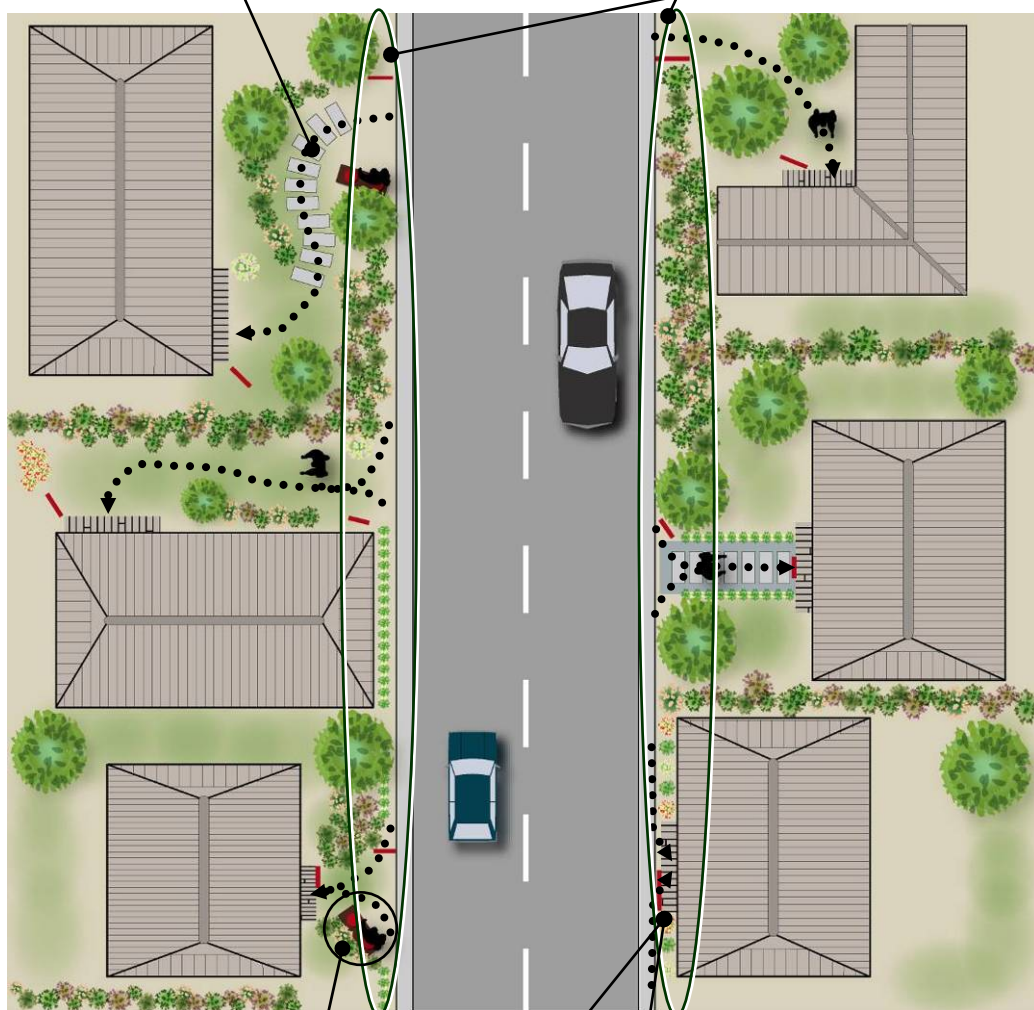
道路と建物の間の空間に余裕がある場合は、緑のトンネルをくぐるように歩かせることで、来訪者の期待感がより大きくなる効果もあります。



▲地区内での例

緑の連続によって街並みの一体感を創出しながらも、建物の規模や配置に合わせた植栽構成やエントランスのアプローチをつくることで、個性あふれる沿道空間となります。

住宅についても、沿道空間や玄関先を植栽や水で演出することで、みどりの連続性を創出するだけでなく、生活している人の気配りも感じられる街並みをつくります。



休憩スペースを設置し、まち行く人にくつろぎの空間を提供します。

— アクセントとなるサイン
◄◄◄ アプローチの動線

空間にゆとりがない場合でも、できる範囲で緑化に努め、沿道のみどりの連続性を確保しましょう。

また、間口を狭めたり、暖簾等を活用しながら、のぞき見たいと思わせる演出を心がけましょう。



空間にゆとりがない場合でも、縁側を活用することで、建物と道路、建物と庭がつながり、魅力的な店先空間、交流空間をつくることができます。





作法 6 提灯や行灯、番傘などを活用した照明で演出しましょう

■「和」を感じさせる照明

照明に用いる素材にも配慮し、木や竹、和紙などを活用することで、より風情ある「和」の街並みに調和した夜景を演出できます。



▲ 番傘を活用した照明のイメージ



▲ 足元を照らす行灯の例

■ イベントでの灯りによる演出



▲ かまくら祭り



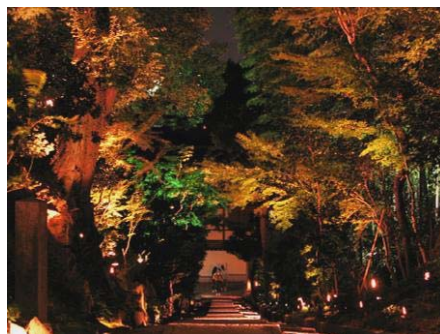
▲ 竹の宵まつり



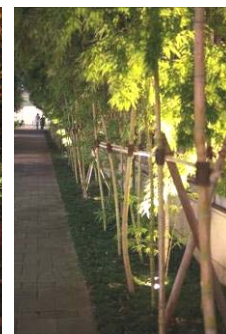
作法 7 街並みの中の木々や草花を、光とともに魅せましょう

■ 植栽のライトアップのイメージ

街並みの中の木々や草花をライトアップすることで、湯西川の特長でもある美しい自然景観が夜でも楽しめるようになり、昼間とは違った雰囲気を出します。



▲ 沿道の木々を足元から照らしている例



▲ 塀に沿って並んだ生け垣を照らしている例

▲ 店先の前庭を光で演出している例